

2021年5月4日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第2戦富士、 ステディな走りで6位フィニッシュ

SUPER GT 第2戦富士レポート



2021 SUPER GT 第2戦「たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE」(5/3-4) 富士スピードウェイ(1周4.563km)

5月4日（祝・火）、2年振りのゴールデンウィーク開催となったSUPER GT第2戦「たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE」の決勝が行われ、8番グリッドから剛毅果断に勝利を狙っていったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、スタート&3rdスティント担当したドライバーのヘイキ・コバライネン、2ndスティント担当の中山雄一が、決勝ではトップにも劣らない好ペースで走行。2回のピットワークもミス無く安定してこなし、セーフティカーやFCY3回導入など波乱の500kmレースをステディな粘りの走りで6位フィニッシュ。開幕から2戦連続ポイント獲得を果たした。

ドライバーポイントは5点（計13点）、チームポイントは8点（計19点）を獲得し、いずれもランキング5位に。次戦は、5月29日（土）・30日（日）に鈴鹿サーキットで第3戦として開催される。

■事前情報

2021年シーズン開幕戦岡山では粘りの走りで次につながる4位フィニッシュとなったDENSO KOBELCO SARD GR Supra。第2戦「たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE」は、2年振りのゴールデンウィーク開催ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な感染防止対策や人数制限を講じながら有観客での開催。5月3日（祝・月）午前公式練習、午後ノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、4日（祝・火）決勝は14時30分スタートで、2年振りの500km（110周：約3時間）で争われる。ドライバー交代を伴うピットストップは2回が義務付けで、サクセスウェイトに名称変更となった追加重量は、現獲得ポイントの倍となる16kgを搭載する。重量増による富士でのタイムの落ち込みは、16kgだと約0.2～0.3秒となる。



霊峰富士の麓にある富士スピードウェイは1.5kmにおよぶ世界屈指のロングストレートと迫力のTGRコーナーでの先陣争い、続いて超高速コーナーバトル、ダンロップコーナーでのブレーキング競争、つづら折りの峠道のような上りのセクター3など低速から高速までパッシングポイントが多く非常にバラエティに富んだダイナミックなサーキット。3月末に行われたGTA公式テスト富士で、DENSO KOBELCO SARD GR Supraは上位タイムを刻み、昨年当地で1勝を挙げた相性の良いサーキットだけに、ここで流れを引き寄せてシーズン序盤戦を良い形に造り上げていきたいところ。500kmの長丁場ゆえに天候や運も含めてレース戦略&チーム総合力によって大きく勝負が左右される第2戦富士。チーム一丸となって剛毅果断に勝利を狙っていった。

■公式練習走行

3日（祝・月）9時5分から開始された公式練習走行は、まさに五月晴れで清々しい快晴に。気温15度/路面温度25度の風が強めのコンディションで85分間の混走セッションが開始された。前戦同様に路面状況が改善された10分ほど経過後に、まずは中山がソフト側ドライタイヤを装着してコースイン。赤旗中断を挟みながら、9周目に1分28秒779のその時点で4番手タイムをマーク。車両のセットを微調整し、14周目からはハード側タイヤを装着。18周目に1分28秒541と5番手タイムをマーク。ハード側の方が若干アンダー気味であったがタイムが出てコンディションに合っている様子。21周目からヘイキがハード側タイヤでロングランを実施。1分29秒～30秒台で安定した好タイムを刻み、混走セッションは1分28秒541の6番手タイムながらフィーリング的に仕上がりの良さを感じる出だしとなった。10分間のGT500単独セッションでは、持ち込みタイヤ本数制限からヘイキが予選で使用しないソフト側のタイヤでアタックシミュレーションを実施し、1分28秒365の7番手のタイムとなった。公式練習走行ではトータル43周を走行。順位こそ7位であったがまずまずの手応えを感じる公式練習走行となった。



■公式予選

■Q1：中山が超僅差のQ1を7位で突破

3日（祝・月）Q1開始時点では風も弱まり暖かさも出てきて、気温17度/路面温度28度のコンディション。残り9分ほどでコースインしたファーストアタッカーの中山。公式練習で良いフィーリングであったハード側タイヤを装着してコースイン。5周目にアタックを開始してセクター3で38秒台前半の好ペースで駆け抜けて1分27秒418と上位タイムを刻む。続く6周目もアタックを敢行してセクター1では全体ベスト。セクター2も上位タイムを刻み大きな期待がかかったが、セクター3でタイムが伸びず。セクターベストをつなげば、ほぼトップのポテンシャルはある手応えで超僅差となった争いの中、1分27秒418の7位でQ2進出を決めた。



■Q2：ヘイキがタイムを伸ばせず8番グリッドに

Q2開始時点では気温16度/路面温度26度。開始から同じく残り9分ほどでコースインしたヘイキ。アタック周を6周目と決め、ハード側タイヤを装着して丁寧にタイヤを温めていく。Q1から若干ではあったが路気温が下がった影響からか、6周目にアタックに入ったセクター1で中山のタイムからコンマ2秒ほど遅れてしまう。十分にグリップを得られておらず特にセクター2でタイムが伸びず。上位グリッドではなくポールを狙って、このコンディション下でのタイヤの特性から1周アタックのみに懸けたが、うまくタイヤの温めとコンディション変化にマッチしていない様子で、1ランクソフト側のタイヤを装着した上位車と比べて、思うように実力を発揮できずに1分27秒579の8位となった。



■決勝

■ウォームアップ走行

4日（祝・火）12時55分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、暖かさが急激に増していく五月晴れの中で気温20度/路面温度33度のコンディション。まずは中山が決勝スタートタイヤと同スペックの24周走行したハード側タイヤを装着してアウトインの確認。続いてスタート担当のヘイキがロングランを実施。最後に再び中山が2周ドライブ。昨日とはコンディションが大きく変わったウォームアップは、1分30秒～31秒台のペースで12周を走行。1分30秒283の9番手タイムとなった。

■決勝レース

第1スティント：ヘイキが堅調なペースでスティントを引っ張る戦略



4日（祝・火）14時30分決勝スタート時点は気温21度/路面温度35度と上昇し、暖かい日差しが照りつけるコンディション。スタート担当のヘイキが剛毅果断に勝利を狙っていったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、整然としたスタートの中、回りに比べ硬めのタイヤだったために序盤に順位を下げるもセーフティカー導入を挟んで8周ほど経つと本来のペースを発揮しだしてセクターベストを刻みながら堅調な走り。31周目にFCYが導入。その後、戦略の違う車両が1回のピットインを始めたが、ペースが安定して上位タイムを刻んでいたため、最大限ピットインをひっぱり戦略を取り、43周を終えヘイキをピットに呼び戻した。

第2スティント：中山が好ペースでステディにポジションアップ

GT500で一番最後に1回目ピットインし、素早いピットワークで中山を送り出す。気温20度/路面温度28度と若干下がったコンディションで、スタートと同じハード側タイヤを装着。10位のポジションで戦列に復帰すると2回目のFCYが導入される。FCY解除後に直ぐさまペースアップを図った中山は53周目に19号車をオーバーテイクし、9位にポジションアップ。ステディな走りで前を追いかけて、トップ差をも縮めていく好ペースの走り。長丁場だけにこの先にどのような事態が起きるか分からないため諦めずにプッシュを続けていった。そして義務周回数を超えた38週の第2スティントを走り切り、81周を終えて中山がピットに滑り込んだ。



第3スティント：ヘイキが猛追、FCYに追い上げを阻まれるも6位フィニッシュ

2回目のピットワークも素早くヘイキを送り出すと9位のポジション。気温19度/路面温度24度と下がり、タイヤもソフト側をチョイス。脱兎のごとく戦列に復帰したヘイキは直ぐにトップペースで前を追いかける。88周目には前走車を華麗にオーバーテイクすると8位に。その後も前を捉えようと猛追していた矢先に96周目にFCYが導入される不運。FCY解除され、仕切り直しの99周目から秒単位で前を追いかけていき、ペナルティやトラブル車両もあって6位のポジションから、105周目には5位3号車に0.5秒差まで追い上げ、最後まで諦めない気合いを見せるヘイキ。幾度とオーバーテイクを試み3号車とのバトルを繰り広げるが、110周に惜しくもチェッカー。波乱の500kmレースをステディな粘りの走りで6位フィニッシュし、2戦連続ポイント獲得を果たした。



ドライバーポイントは5点（計13点）、チームポイントは8点（計19点）を獲得し、いずれもランキング5位に。次戦は、5月29日（土）・30日（日）に鈴鹿サーキットで第3戦として開催される。



■ヘイキ・コバライネン

「この週末、クルマのフィーリングは良かったけど特にコンディション変化にも悩んだ週末になった。予選Q2では自分のフィーリングとタイムをうまくまとめられなくてコンマ数秒損してしまった。決勝では良いペースで走れてフィーリングは蘇ったけど、勝利できるまでの速さは足りなかった。でも良い流れをつかめれば高いポテンシャルはあったので展開によっては上位を走れたという手応えはある。SUPER GTは難しいレースだけれども、克服していく面白さもある。2戦連続ポイント獲得できたことは良いこと。次の第3戦鈴鹿へ向けてチームとしてやるべき事はたくさんあるけど期待しておいて欲しい」



■中山 雄一

「結果は6位でしたが内容は10位ぐらいでしょうか。とても残念です。今回はマシンにポテンシャルがあって、良いフィーリングで走ることができていましたが、展開がまったくうまく行きませんでした。前回の岡山とは真逆の内容。すべてのピースが揃わないと、うまくいかないレースだと改めて思いました。マシンの調子が戻ったことと、予選中のセクタータイム、決勝中のラップタイムが良かったこと。またそれぞれのセッションの問題点がほとんど計算通りいきそうな点は次戦に向けてとてもポジティブな印象です。鈴鹿こそ強いレースを見せたいと思います。引き続き応援よろしくお願い申し上げます」



■監督 脇阪 寿一

「このSUPER GTの厳しさを改めて感じたレースになりました。チームとして成長は続けてますが、このGTの僅差の戦いはどんどんレベルが上がって、些細なことが順位に影響して大きく変わってしまい、歯を食いしばりついて行かなければなりません。ある程度のポテンシャルがありながら、TVに映らない様なレースをしてしまった我々。とても悔しい週末でしたが必ず次に繋げて、そして必ず仲間たちと必ず超えてみせます。久しぶりのGW開催でしたがスタンドからの熱い応援を感じられたレースでもあり気が引き締まりました。引き続き熱いご声援をよろしくお願いいたします！」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本 雄資／宮田 莉朋	*1'26.496	0
2	8	ARTA NSX-GT	野尻 智紀／福住 仁嶺	*1'26.499	8
3	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川 祐路／石浦 宏明	*1'27.031	10
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	*1'27.579	16

天候：晴れ、コース：ドライ、Timeの*印はQ2ベスト

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	17	Astemo NSX-GT	塚越 広大／B.バゲット	3:03'07.846	110
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋 和也／山下 健太	+0.831	110
3	37	KeePer TOM'S GR Supra	平川 亮／阪口 晴南	+1.117	110
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	+36.390	110

天候：晴れ、コース：ドライ、4.563km×110Laps

■ Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	14	大嶋／山下	35
2	17	塚越／バゲット	26
3	37	平川／阪口	23
5	39	コバライネン／中山	13

Point standings after Rd.2

■ Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	41
2	17	Astemo REAL RACING	32
3	37	TGR TEAM KeePer TOM'S	28
5	39	TGR TEAM SARD	19

Point standings after Rd.2

■ Partners

TOYOTA

Owltech

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

小松開発工業

SALOMON
SPORTSWEAR

MECHANIX WEAR

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

TOYOTA
GAZOO Racing

TENNECO

豊田通商

JMS

SUUNTO

MAKE WINNER



DENSO

豊田自動織機

FUJIMAKI
GROUP

中京化成工業

ATOMIC

GruppeM
Racing Inc.

KOBELCO

JTEKT

INOS

Mizuno

KARL STORZ NDTec

UNIMAT LIFE

Racing Development
TRD

豊田合成

HAYASHI
TELEPHON

BBS

ALTAIR

admic

BRIDGESTONE

進和

ADVICS

hp

MOTUL

■ 情報参照先

- サード公式ウェブサイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SARD YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtooRFaF5FVA>
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp